

『ボクの方がお兄ちゃんだから・・・。』



お早うございます。(おはようございます。)

6年生の元気な声で、挨拶ができました。

蒸し暑い季節になってきましたけれども、みんな元気ですか。

熱中症にならないように自分で気をつけて元気に、健康に過ごせるように気をつけてください。

このところの暑さで、休み時間の終わりや昼休みには冷水機の前に列ができていました。ちゃんと並んでなかよく水が飲めましたね。

でも、時々ひょいっと、横はiriして飲んでしまう上級生も、いましたよ…。

そこで今日は、「ぼくの方がお兄ちゃんだから」というお話をします。今頃になると、皆さんに考えてほしくて前にもお話しました。

何年か前のちょうど今頃のことです。

近くの公園に散歩で立ち寄ったときのことです。

蒸し暑い日で、私の座っているベンチの近くの水のみ場には子どもたちがひっきりなしに水を飲みにきていました。

そんなときの出来事です。

小学校の低学年くらいの男の子がお母さんと一緒に水を飲みにきました。楽しそうに話をしながら。

でも、ちょうどこの子が水を飲もうとしたとき、横から走ってきた幼稚園くらいの小さな女の子がすっと割り込んでお水を飲み始めてしまいました。驚いたように一歩下がった男の子はそれでも黙って、女の子が飲み終わるのを待っていました。

そんな男の子のことには気がつかないで、この女の子は走って追いついてきたお母さんとはしゃいでいます。様子の分からない、女の子のお母さんも思わず水道に近づきました。

これを見ていた男の子のお母さんは、我慢しきれずに「ちょっと待ってください。うちの子が今水を飲もうとしていたのに、割り込んで先に飲むなんて、いくら小さい子にだってルールはあるでしょ。」と女の子のお母さんに注意しました。

これを聞いて女の子のお母さんはおどろいて「小さいとはいえすみませんでした。うっかり築きませんでした。坊やごめんなさいね・・・。」と女の子の手を引いて、いってしまいました。

お母さんがふり返ると、男の子は目を潤ませ、涙をいっぱいためていました。

お母さんは、女の子に水飲み場を横取りされたのが悔しいのかと思って、男の子に話を聞きました。すると・・・。

「ちがう、ちがう。あの子は僕よりずっと小さいから、だから僕はがまんしてあの子に先に飲ませてあげたんだ。だのにママはあのおばさんに怒るんだもの。せっかくゆずってあげたのに・・・。」

お母さんは、「・・・・・・・・・・・・・・・・。」

何もいえませんでした。

でも、男の子の顔を見て（お兄ちゃんになったなど、）ちよっぴりうれしそうでした・・・。

大きくなるということは、自分よりも小さい子が増えるということ。そして、自分より小さい子には優しくしてあげようというお話を前にしましたね。

最近、朝学校に来る途中で1年生が転んでひざ小僧をすりむいたり、友だちとケンカして元気をなくして泣きそうだったりしていると、近くにいた2年生や3年生、4年生、5年生、6年生の小さなお兄さんやお姉さんが、大丈夫と声をかけて、一緒に手をつないで学校まで連れて行ってくれる姿をよく見かけます。とっても素敵だね。ありがとう。

さて、さて、水飲み場の出来事。

桃五の皆さん。皆さんならどうしますか。

やっぱり怒りますか。それとも、ゆずってあげますか……。



もちもちの木の豆太も……。